

Title	植民地時代米國の土地保有制度
Author(s)	堀江, 保藏
Citation	經濟論叢 (1934), 38(1): 198-216
Issue Date	1934-01-01
URL	http://dx.doi.org/10.14989/130400
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

山本博士
還曆祝賀
記念論文集

京都帝國大學經濟學會

昭和九年一月一日發行

經濟論叢

第三十八卷第一號

(通卷第二百二十三號。禁轉載)

奉
呈

山本美越乃先生

執筆者一同

目次

尙書の虞夏書に見はれたる經濟思想

酒の專賣に就きて

マールクスの認識論原理

植民の世界史的意義

農業生産に於ける水平的分化と垂直的分化

我國工業に於ける小企業の殘存に関する一研究

資本蓄積率の差異と固定資本

中央銀行兌換準備檢討

貨幣需要と貨幣の流通速度

植民地時代米國の土地保有制度

米國の對玖馬投資とその影響

法學博士 田島 錦治 一

法學博士 神戸 正雄 四

文學博士 米田庄太郎 四

文學博士 高田 保馬 四

經濟學士 八木芳之助 三

經濟學士 大塚 一朗 一七

經濟學士 柴田 敬 一三

經濟學士 松岡 孝兒 一〇

經濟學士 中谷 實 一六

經濟學士 堀江 保藏 一六

經濟學士 長田 三郎 二七

免稅點以下の小額所得者

經濟學博士 汐見 三郎 二四

經營學の基礎概念たる資本、企業及經營

經濟學博士 小島昌太郎 二六〇

世界科學に就て

經濟學博士 作田 莊一 二七六

漁村更生策に於ける問題

經濟學士 蜷川 虎三 二九五

人口粗密の原因觀

法學博士 財部 靜治 三二五

徳川時代における植民的思想

經濟學博士 本庄榮治郎 三三九

ヘーゲル市民社會論と經濟學

經濟學博士 石川 興二 三四九

恐慌と蓄積と植民

經濟學博士 谷口 吉彦 三六九

北海道鯨漁業に現存の漁場貸借關係

經濟學士 岡本 清造 三四四

我國に於ける植民政策學の發達

經濟學士 金持 一郎 四一七

クレルウキアに就いて

農學士 若木 禮 四四〇

山本美越乃博士年譜及著書論文目錄

經濟學士 高木 眞助 四七〇

植民地時代米國の土地保有制度

堀 江 保 藏

一、序 言

アメリカに於ける英國の各植民地は、獨自の土地制度を求め、一の農業的基礎、即ち植民地的土地保有制度の上に築かれ、而してこの制度は大部分の植民地人口即ち勞働者及土地保有者の經濟狀態を制約した。特に東北部數個の植民地を總括する新英蘭ニューイングランドの自由保有制度は、その上に經濟的獨立てふアメリカ魂が打建てられたるが故に、實業界に對するアメリカ最大の贈物であるといはれてゐる。當時歐羅巴に於ても南アメリカに於ても、土地は引續き小作人又は借地人によつて耕されて來たが、英領アメリカに於ては、小作人或は債務の代償として債權者の許に勞働する勞働者なき自由土地所有制度が、新しい民主主義に對する基礎を提供したのである。併し元來は、英國のアメリカ植民地の土地全部が自由保有制度の下にあつたわけではない。新英蘭の制度がその優秀さの故に廣く行はるるに至るまでは、植民地は、共同的保有制度から封建的保有制度を経て、個人的自由保有制度に至るまで、知らるる限り殆どあらゆる種類の形態の土地保有制度を経験したのである。

1) Humphrey, E. F.; An Economic History of the United States. 1931. p. 52.

本稿の目的は、共同的或は封建的土地保有制度が如何にして成立したか、又其等が如何なる事情に基いて近代的な個人的自由保有制度、即ち個人が自己の土地を無條件に使用・收益・處分し得る制度に推移したかを明かにせんとするにある。而して各種土地保有制度を成立せしめた諸事情としては、土地の自然的地理的狀態が勿論重要視さるべきであるが、各植民地の成立過程、從つて植民地の性質も亦與つて力があると思はるるが故に、以下先づ植民地の性質に就て一言しよう。

二、植民地の成立過程

當時英國に於て行はれてゐた理論によれば、アメリカに於ける土地の所有權は英國王に附與せられ、原住民族たるアメリカ印度人の所有權は全く無視せられてゐた。從つて土地に對するあらゆる派生的權利は國王に由來した。茲に於てアメリカに於ける土地獲得の權利、從つて植民の權利は國王の特許に俟たねばならなかつた。アメリカに於ける英國植民地の大部分は、この特許に基いて創設せらるるか、若くは實際創設せられたる後特許を受くるか、孰れかによつたものであるが、このうちにも植民地として自治を認められたものと、個人の私領地として當該個人に支配權を賦與せられたものとの二種類あつた。前者は自治植民地若くは特許植民地 (charter colony) と稱せらるるものであり、後者は領地植民地若くは私領植民地 (proprietary colony) と稱せらるるものである。

2) Lippincott, I.; Economic Development of the United States. 3rd ed. 1933. p. 77.

るものである。

右の兩者がアメリカに於ける英國植民地の基本的形態であり、又本來的性質を有するものであるが、後には國王が特許を取消し、或は領有權を沒收して成れる王領植民地 (crown colony) なる第三種の植民地が生じた。蓋し當時國王 (King) は未だ王室 (Crown) たるの性質を除却するを得なかつたが故に、斯の如き王室直轄の植民地も生じ得たのである。以下各植民地の創設過程を此等三種に分つて説明しよう。

(イ) 自治植民地 アメリカに於ける英國植民地のうち、自治植民地として創設せられたものは、ヴァージニア・マサチューセッツ・ロードアイランド・コネティカットの四である。

ヴァージニア植民地は、一六〇六年に特許を得て組織せられたロンドン會社によつて創設せられた。同社はその特許狀によつて北緯三四度乃至四一度の地域に對する植民權を認められ、翌年先づ約百名の移住者を送り、ジェームスタウン (Jamestown) を起したが、移住者の大部分は勞働の經驗なき貧乏紳士であり、又會社の彼等に對する命令は、土地の耕作のみではなく、印度に至る通路の探索、金鑛の發見、印度人との取引の開拓等であつて、双方共に植民に對する確固たる概念を有せざりしたため、植民事業は殆ど失敗に終らんとした。併し一六〇九年に同社はヴァージニア會社として再組織せられ、海岸線四百哩に相當する内部の土地を讓渡せられ、移住民も堅實なる農耕生活に従事する事となりしたため、こゝに自治植民地としてその將來を約束せらるることと

3) Lippincott; ibid. p. 78.

なつた。

マサチューセッツ植民地は、清教徒の一團が一六二九年に特許を受けてマサチューセッツ灣會社を組織し、株主自ら移住を企てて成れる植民地である。この會社はヴァージニア會社と異り、本社を倫敦に定めざりしたため、その特許狀は移住地に齎らされ、従つて移住者は自ら各種の事項を處理し得たること、移住者自ら必要な資金・家畜・道具・衣服、印度人との交換用品其他を準備せしため、本國より官省の支配或は金融的支配を受けざりしことをその特色とする⁴⁾。

マサチューセッツ植民地の創設者は、國教に反抗し宗教的自由を求めて英國の故地を離れた清教徒の人達であつたが、彼等はアメリカに定着するや、清教主義を以て恰も自己の國教となし、之に基いて政治を行ひ、この主義に順はざるものを迫害せんとする、謂はゞ貴族主義的な反民主主義的な態度をとつた。彼等の指導者が最初英國流の大土地保有制度を移植し、勞働者や農奴を役して耕作せんと計つたのも、かゝる貴族主義の現はれである。されば指導者のかゝる態度に慄らざる人達は、マサチューセッツを脱して自主的な植民地を建設せんとした。例へばウィリアムス (Roger Williams) は一六三六年にナラガンセット灣頭にプロヴィデンス居住地を起し、二年後ハッチンソン夫人 (Mrs. Hutchinson) はその附近のポーツマスに一植民地を建てた。其後かゝる人達は續々として集り、一六四七年に此等の居住地は相合して一の聯合を作り、一六六三年に特許を受けてロードアイランド及プロヴィデンス植民地となつた。コネティカット植民地も同様に、

4) Bogart, E. L.; Economic History of the American People. 1930. p. 61.

マサチューセツツを追はれた人達によつて創設せられ、一六六二年に自治の特許を得たものである。

以上の外自治植民地の實質を備へたものに、プリマウス・ニューヘヴンの二植民地がある。前者は清教徒と同様に英國を脱した分離派の人達と、倫敦の商人とが株主となつて創立せる一特許會社によつて建設せられたものである。而して自らアメリカへ移住せる分離派の人達は、後に倫敦の商人よりその持株を買取り、以てその羈絆を脱したが、遂に國王より自治の特許を受くるを得ず、一六九一年に至つてマサチューセツツに併合せられた。後者はコネティカットやロードアイランドと同様に、マサチューセツツより分離せる植民地であるが、間もなくコネティカットに併合せられた。

(□) 私領植民地

これは國王が特定の個人に對して、主として政治上の功勞に對する褒賞として、一定の土地並にその植民權を賦與することによつて成立せる植民地である。當時の國王チャールス一世及同二世は共に或は王權神授説を、或は舊敎主義を信奉し、議會主義者及び國敎其他の宗派の者に壓迫を加へつゝあつた。チャールス一世の如きは爲めに斷頭臺上の露と消え、チャールス二世は、クロムウェルの共和政府倒壊後、漸く迎へられて王位を繼承せし程である。されば此等の國王は、自己の王位の維持或は獲得のために功勞ありし人々に、これに酬ゆる一方法として、前述の如き植民權を賦與したのである。従つて斯の如き特權を受けた人達は、資産家又

は貴族たるを普通とした。斯の如き方法によつて創設せられた私領植民地は次の如くであつて、アメリカに於ける英國植民地の大部分をなす。

先づボルチモア卿 (Lord Baltimore) は、一六三二年に北緯四十度以南ポトマック河に至る廣大なる地域を領土として、之に植民するの特許を與へられた。これ即ちメリーランド植民地である。又一六六四年にチャールス二世の王弟ヨーク公 (Duke of York) は、ハドソン河とデラウェア河との間の土地を受けてニューヨーク植民地を創設した。ニュージャーシーは元來同植民地の一部であつたが、間もなくヨーク公の友人であるバークレー卿 (Lord Berkeley) とカートレット (Sir G. Carteret) とに與へられ、別個の植民地となつた。

ペンシルヴェニアはウィリアムペン (W. Penn) が、父より譲受けたるチャールス二世に對する債權一萬六千磅の代償として受けたる私領地である。ペンに對する特許狀によれば、この地はデラウェア河の西に横はり、海に面してゐないので、彼は一六八二年にヨーク公に説いて、その所領地である元の新瑞典即ちデラウェア地方を譲受け、之を自己の所領地に加へた。このデラウェアは、一七〇二年に至り一の植民地として分離したが、獨立戰爭當時まで、ペンシルヴェニアと共にペン家の私領として存置せられた。

又カロライナの土地は、一六六三年にチャールス二世から彼の功臣アシュレー卿 (Lord Ashley) 等八人の貴族に與へられたものであつて、この地の開發が南北二方面より行はれし爲め自然南北

の別を生じ、一七〇〇年に分離して夫々獨立の植民地となつた。更に一七三二年に國王ジョージ二世はオグルソープ (James Oglethorpe) 等に對して、カロライナの南に横はるジョージアの土地を與へた。

以上の外私領植民地の特許を受けしものに、アメリカ植民地の最北に位するメインがあるが、同植民地は一六七七年マサチューセッツに併合せられ、一八二〇年に獨立の一州となるまでその一部を形成した。

(ハ) 王領植民地 アメリカに於ける英國植民地は、以上の如くにして自治植民地又私領植民地として創設せられたが、此等のうちには王領植民地となるもの續出し、獨立戰爭當時自治植民地として残るもの二、私領植民地として残るもの僅かに三となつた。王領となれる植民地のうちには、ニューヨークの如く、領主たるヨーク公がジェームス二世として王位に即きしたため、自然に王領植民地となれるものもある。併し多くの場合に於ては、各植民地は議會を持ち、國王の意に順はざるが如き態度に出でたため、國王は自治又は私領の特許を取消し、知事を派遣して直接統治することとしたのである。

以上述べしところを簡單に表示すれば左の如くである。

名稱 (○印は獨立十三州)	創設者	創設年	特許年代	創設當時の性質	獨立戰爭當時の性質	王領となりし年代	備考

○ヴァージニア	倫敦會社	一六〇七一六〇六	自治	王領	一六二四	
プリマウス	分離派	一六二〇	特許ナシ	(自治)		一六九一年マサチューセッツに併合
○マサチューセッツ	マサチューセッツ 灣會社(清教徒)	一六二八	一六二九	自治	王領	一六九一
○メリーランド	ボルチモア卿	一六三四	一六三二	私領	私領	
○ロードアイランド	ウイリアムス	一六三六	一六六三	自治	自治	
○コネティカット	マサチューセッツ よりの分離者	一六三五	一六六二	自治	自治	
ニューヘヴン	右に同じ	一六三八	特許ナシ	(自治)		一六六二年コネティカットに併合
メーソン	ゴードス	一六四一	一六三九	私領		一六七七年マサチューセッツに併合
○北カロライナ	アシュレー卿等	一六六三	一六六三	私領	王領	一七二九
○南カロライナ		一六六三	一六六三	私領	王領	一七二九
○ニューヨーク	ヨーク公	一六六四	一六六四	私領	王領	一六八五
○ニューハンプシア	メースン	一六七八		(自治)	王領	一六八二
○ニュージャージー	バークレー及 カートレット	一六六四	一六六三	私領	王領	一七〇二
○ペンシルヴァニア	ペン	一六八二	一六八一	私領	私領	
○デラウェア	瑞典人	一六三八	一六八一	私領	私領	一六五五年蘭領となり、一六六四年 英領となる
○ジョージア	オグルソープ	一七三二	一七三二	私領	王領	一七五二

本表は市村清次郎氏「米國膨張史」六八―九頁所掲の「英國植民地表」を諸書によつて補正せるものである。

三、共同的・封建的土地保有制度

第一節に述べしが如く、アメリカ植民地に於ては、その成立の當初より個人的な自由土地保有制度が廣く行はれたわけではなく、共同的な或は封建的な土地保有制度も行はれた。言ふ迄もなく初期の移住者は、原住民族が散居するに過ぎない、謂はゞ實質的には無主の荒野に渡來したのであるから、彼等は原始的自然的狀態に一應立歸らなければならなかつたが、併し人と土地との關係のみが存在し、土地を媒介とする人と人との關係、即ち社會關係が全然存在しないといふ狀態に置かれることは許されなかつた。即ち印度人の襲撃を防衛するために移住者は相互に團體を作ることが必要であり、又移住者の多くは裕福ならず、従つて渡航費並に最初の收穫までの生活資料を特許會社又は私領主に仰ぐ必要ありしたため、その間には債權債務乃至は權力服從の關係が成立せざるを得なかつたのである。又之を植民地の支配者の側よりすれば、多數の移住者を送つて産物の増加を計るためには、移住者に何らかの恩典を與ふことが必要であつたが、この恩典に對する直接的代償を受くるために、移住者との間に一定の社會關係を結ばんとしたことは之亦當然である。かくてアメリカ植民地に於ては、たとひそれが殆ど形式的であつたにせよ、共同的な或は封建的な土地保有制度が行はれたのである。

(イ) 共同的土地保有制度

ヴァージニア植民地に於ては、當初共同保有制度が採用せられ

た。先づ會社によつて集められた資金は農具・家畜及び移住者が最初の收穫までの生活を支ふるに足る食物等に投下せられ、此等の品物は移住者の必要が充足さるべき共同貯蓄として取扱はれた。移住者はその能力に應じて狩獵・漁撈・耕作・大工・鍛冶等夫々割當てられた仕事に従事し、その生産物は共同倉庫に納められた。又最初に建てられた家は全員共同して之を使用し、最初に建造せられた船は團體に所屬した。⁶⁾勿論移住者は、彼等の生産物にして歐羅巴市場に販路あるものは、之を倫敦の本店に送らねばならなかつたが、彼等の植民地に於ける生活は全然共同的であり、従つて土地は、會社の上級所有權の下に於て共同に保有せられてゐたのである。

プリマウス植民地に於ても同様の事例が見られる。併しこの場合に於ては、倫敦の商人が移住資金の出資を以て株主となりしに對し、移住者は移住そのことを以て株主となつたのであるから土地の共同保有制度も上級所有權なきに等しかつた。事實協約書には、移住者は七年間植民地産物を倫敦に送るべきことのみが記載せられ、土地の使用・處分は移住者の自由に委ねられてゐたのである。

以上と異りマサチューセツツ植民地に於ては准村落共同體が成立し、各村落 (town) は政治的にこそ植民地の中央機關である立法院 (general court 又は legislature) の統制を受けたが、各村落の經濟は全く獨立であつた。即ち此處に於ては、既に居住せられた土地より分離して未開發地に移住せんとするものは、一の團體を組んで立法院に土地の讓渡を請願し、讓渡せられた土地――

6) Coman, K.; The Industrial History of the United States. 1905. pp. 24—25.

通常三十六平方哩——を基礎として、英國古代の村落共同體であるタウンの生活を再現したのである。即ち土地はタウン認可制度 (system of township grant) の下に、個人ではなくして團體に譲渡せられたのである。タウンに屬する土地は、タウンの教會及學校の設立・維持のために若干留保せられ、最初屋敷地のみが成員にその私有地として與へられたが、耕地は之を總有地とし、その耕作は毎年タウンの總會に於て決定せらるる有様であつた。間もなく耕地も各成員の能力・家族員數等に應じて分割私有せらるることとなつたが、牧草地・森林地・沼澤地等は依然總有せられ、挽材所・水車等も共同に使用せられたのであるから、耕地が私有化しても、タウンは依然村落共同體たるの性質を失はなかつたのである。而もマサチューセツツは株主全部が移住して創設せる植民地なるが故に、タウン、從つて個人の耕地保有關係は全く自由無條件であつた。

マサチューセツツのこのタウン制度はコネティカット・ロードアイランド・プリマウス等新英蘭全般に普及し、英國植民地に於ける一の代表的土地保有制度となつた。

(□) 封建的土地保有制度 以上の共同的土地保有制度は新英蘭及ヴァージニア、即ち自治

植民地に於て行はれたものであるが、私領植民地には封建的土地保有制度が廣く行はれた。私領植民地の土地は前述の如く國王よりその功臣に賦與せられたものであつて、領主は國王に對して一定の貢納をなせしが如くである。例へばメリーランドに封ぜられたるボルチモア卿は、國王の統治權を認める章として、毎年印度人の矢二本と領内に産する金銀の五分の一とを献上する定め

で、私領權を得たのであつて、茲に既に國王と領主との間に封建的主従關係が成立したのである。従つて私領植民地は所謂封土であり、従つて領主は殆ど任意に所領地を處分することが出来た。

植民地の領主がとれる最も普通の土地處分方法は、一定條件の下に拂下げ若くは讓與することであつた。之をメリーランドに就て見るに、最初領主は、五人の移住者を送り之に生活資料を給する所謂 *adventurers* に對して、年二十シリングの地代を條件に千エーカーの土地を與へ、彼等を領主とする多數の莊園を設けんとした。この制度は多數の移住者を招致する上に大なる効果なかりしを以て、間もなく移住者に直接土地を與ふる制度を採用した。之によつて移住者は約二十磅の準備費並に渡航費を受くるのみならず、彼及妻並に僕婢一人につき夫々百エーカー、十六歳以下の子供一人につき五十エーカーの土地を受け得ることとせられた。而して此等の土地に對して領主は、百エーカーにつき免役地代 (*quit rent*) として毎年二十封度の小麥を徴したのである(讓與單位は一六四二年に五十エーカーとなり、一六八三年以後は代價をとつて拂下げらるることとなつた。又免役地代は後ニシリングとなり終には四シリングとなつた)。

ペンシルヴェニアに於ても同様の事が見られる。即ち領主は五千エーカーを百磅で賣り、そこへ送らるる契約奴僕 (*indentured servant*) 一人毎に五十エーカーを加へ、家族を引連れて來住するものには五百エーカーの土地を與へた。右に所謂契約奴僕は、一定年間主人のために勞働する

ことを條件として渡航費を支給せらるるものであつて、彼等も亦年期終了後は自ら五十エーカーの土地を受けることとせられた。而して領主は右の如く拂下げ若くは譲與せる土地に對して、百エーカーに付き年一シリングの免役地代を課した。

其他の私領植民地に於ても殆ど右と類似の制度が採用せられた。即ち領主は移住者を招致する方法として土地の安價なる拂下若くは譲與を行つたのであるが、此等の土地には夫々免役地代を課したのである。免役地代とは、西歐に於ける莊園の自由借地人が年々領主に之を納め、以て總ての他の賦役を免除せらるる性質のものである。免役地代制度そのものは、莊園制度後期の現象にして、農奴が既に自由農民たらしとする過程を示すものであるが、併し尙ほ封建的たるを失はず、従つてアメリカに於ける免役地代を條件とする土地保有制度は、尙ほ封建的であつたと稱し得るのである。

免役地代を支拂つて土地の保有權を獲得せるものは、殆ど自由に之を使用し處分することが出来た。その結果彼等の間には自己の土地に母國の莊園制度を移植せしものもあつた。否寧ろ、植民の初期に於ては、莊園制度の移植こそ移住者を迎へる最良の方法とさへ考へられた。さればこそメリーランドに於てはこの方法が採用せられ、其他の植民地に於ても、多少の差こそあれ、莊園制度の移植が試みられたのである。この制度が最も多く行はれたのはメリーランドとニューヨークであらう。前者に於ては一六七六年以前に、平均三千エーカーの面積を有する約六十の莊園

が成立し、夫々農奴によつて耕作せられたといふ。⁸⁾ 又ニューヨーク植民地殊にハドソン河の流域には、同地が新和蘭（ニューネーデルラント）と稱して和蘭の植民地なりし時代に設けられしバトルーン制度（patroon system）^{（注）}が依然存置せらるるのみならず、英領となりて後も、その影響を受けて莊園制度は益々廣がつた。此傾向は同植民地が王領となりし後に於ても同様であつて、例へば知事フレッチャー（Fletcher）はその嬖臣及股肱を頻りに莊園領主に封じたので、彼の子孫の一人は、王領の使用し得べき土地の約四分の三は彼の知事時代に約三千人の少數者に與へられたと確言してゐる程である。⁹⁾

註—この制度は、四年間に十五歳以上のもの五十人を移住せしむることを條件として、航行し得べき河岸に間口四リーグ（兩岸ならば二リーグ宛）奥行無制限の土地を特定の個人に與へ、而してこの土地を受けたる地主即バトルーンは漁業狩獵・粉挽等の支配權を享受し、且つ十年間は免税の特典を受くる制度である。¹⁰⁾ 約言すればバトルーンは莊園領主となり、自己が移住せしめた人達を農奴として使役する一種の莊園制度である。

以上の如き各種の土地保有制度のうち、ヴァージニア及プリマウスの共同保有制度は、次節に述ぶる如く、間もなく拋棄せられた。其他のものは、それが行はるる植民地が王領となつた場合に於ても、勿論重要な變化を蒙ることはなかつた。例へば免役地代制度が行はるる植民地が王領となつた場合、この制度は依然繼承せられたのであつて、國王の金庫に納めらるる免役地代が年二萬磅の多きに達したこともあるといふ。¹¹⁾

8) Carman. H. J.; Social and Economic History of the United States, Vol. 1. 1930. p. 65.

9) Carman; ibid. p. 67.

10) Humphrey; ibid. p. 38.

11) ibid. p. 53.

四、自由土地保有制度の發達

以上の如くアメリカ植民地に於ては、當初より自由保有制度が廣く行はれたるに非ずして、共同的或は封建的保有制度が相當廣範圍に亙つて行はれてゐた。併しかかる制度は種々の事情に基いて自由保有制度に變化し、又は變化しつゝあつた。

ヴァージニア及ブリタニヤに於て行はれたる共同的土地保有制度は、孰れも數年ならずして崩壊した。蓋し移住者は多く自己の所有地を求めて渡來せる人達であり、又封建社會の崩壊期に生れて多少ともに個人主義を意識せる人達であつたから、自己の勞働の成果が直接自己の所有に歸せざるが如き制度には満足せず、従つて全力を盡して勞働に従事することを厭ひしが故である。

茲に於てヴァージニア植民地に於ては、一六一一年以後移住者は三エーカー宛の土地を無條件で與へらるることとなつた。又一六一九年以後株主は一人につき百エーカーの土地を受け、その土地が定住せられたならば更に百エーカーを、又植民地へ移住者を送れば一人に付き五十エーカーを與へらるることとなつた。この最後の方法によつて土地を受くる權利を *headright* と稱し、後には株主のみならず、植民地のすべての住民に對して認めらるることとなつた。同植民地が王領となりし後、國王は、家を建て及び三年間に三エーカーの土地を耕す事を條件として、五十エーカーを五シリングで拂下ぐるることとし、かくしてヴァージニアの土地は殆ど處分せられた。ブ

リマウスに於ては共同的土地保有制度は三年にして崩壊し、土地は總て移住者の間に分配せられた。而して移住者は倫敦在住の出資株主よりその株式を買取りたるが故に、彼等は完全なる土地所有權者となつた。

新英蘭を通じて行はれたる村落共同體は、屋敷地のみならずその耕地までも次第に私有化しつゝあつた事を述べた。耕地の私有化は既に共同保有制度が崩壊しつゝありしことを示すものであり、この意味に於て准村落共同體と稱し得るのであるが、其後耕し得べき草地や森林地まで各人に分割保有せらるることとなり、十八世紀の終りには總有地は唯牧地のみとなつた。¹²⁾斯の如く總有地が次第に個人の私有地と化したのは、人口稠密となり印度人に對する共同防衛の必要が減じた結果であるが、個人主義思想が發達して嚴密なる意味に於ける長子相續制度が認められず、遺産の分配に際して長子は他の子供の二倍を受け得るのみとせられたことも亦與つて力がある。

次にメリーランド・ニューヨーク其他に行はれたる莊園制度は、その實質に於て次第に變化を生じた。莊園は當初借地人によつて耕作せられてゐたが、十七世紀の終りには既に彼等の人格的奉公即ち勞務は見られなくなつた。¹³⁾それは一般に免役地代として知らるところのものを支拂ふことによつて代位せられたからである。

而してこの免役地代は、それが莊園領主に納めらるる場合に於ても、私領植民地の領主に納めらるる場合に於ても、將又國王に納めらるる場合に於ても、そこには共通の重要なる性質があつた。即ち免役地代は通常の地代と異り、その大きさが土地の價值に關係を有せざることこれであ

12) Bogart; *ibid.* p. 96.

13) Carman; *ibid.* p. 65.

る。さればその貢納義務者は、その義務を怠らざる限り、その土地を適當と信ずる方法に従つて處分することが出來たのであつて、そこには賣買讓渡も行はれたこと想像に難くない。従つて私領植民地に免役地代制度が普及せることは、この土地が自由保有制度へ移る一步手前にあつたことを意味する。免役地代は斯の如き性質のものであつて、英國に於ては一般に農民から頗る歡迎せられたが、アメリカに於ては然らず、屢々この制度は侵害せられ、時には之を環つて農民と領主との間に紛争さへ起りし程である。この事は領主が本國に居住する場合に殊に甚しかつた。

然らば以上の如く共同的土地保有制度は崩壊し、封建的土地保有制度は崩壊せんとせし原因は何處にあるか。その最も重要なるは土地が豊富なりしこと、及び移住者の大部分が土地を求めて渡來せる農民なりしことこれである。

土地が豊富にして廉價なることは多數移住者の渡來を誘ふ所以であつたが、そこに封建的社會關係が結ばることはそれを阻止する事情であつた。従つて植民地の支配者は直接彼等の勞働の成果を收むるよりも、間接に之を收むる方がより有利なるを悟り、次第に自由保有制度に移さざるを得なかつたのである。特に各植民地の邊境地に對しては支配者の管理權は及ばず、そこに移住開拓せるものは全く自主的に土地を使用・處分し得たのであつて、この状態は既に居住せられた地方にも反映し、土地の私有化傾向を促進した。新英蘭及ヴァージニアに早く採用せられた私有制度が他の植民地に影響を及ぼせし事も、右に關聯してこゝに附言しなければならぬ。移住者の大部分が土地を求めて渡來せる小農民であつた事に就て、カーマンは次の如く述べてゐる。

『移住者は先づ、貿易會社や私領主のために利潤を蓄積するよりも、自己の社會的經濟的地位の改善により多くの關心を持つた。舊世界に於て彼等は、土地の形態に於ける富の所有が、社會的階級に於ける各人の地位を決定する事を知つてゐた。又彼等は舊世界では土地は既に少數者によつて先占せられ、その所有權を獲得することの不可能を知つてゐた。彼等にとつては傳統や習慣に拘束せられない、而も廣大なる面積の土地を持つところの未開發のアメリカは、又と得られない機會の地であるかに見えた。アメリカの處女地の所有は、門地とか官位とか官權とかによるのみならず、努力によつても亦個人的イニシアテイーヴによつても得られるものと彼等は確信した。それ故に彼等はあらゆる形態の封建的土地保有制度に反抗し、結局アメリカ革命の當時、既にアメリカに於ては、土地保有制度は、十八世紀の歐羅巴のそれとは驚くべき差違を示した。¹⁴⁾』

以上の如くにして植民地時代アメリカの土地保有制度は實質的に次第に自由保有制度に推移しつつあつたが、形式的に残存するにすぎない封建的諸制度は獨立戰爭に際して殆ど取除かれた。アメリカが獨立せる結果、先づ王領植民地は完全に英國王の支配を脱して自治權を獲得し、從つて國王との間に結ばれた免役地代制度は廢止せられた。次に獨立戰爭に際して勤王論者は土地を追はれ財産を沒收せられたが、大土地領有者は多く勤王論者なりしが故に土地を沒收せらるるの運命に陥つた。即ち各植民地の代表者を以て組織せる大陸會議 (Continental Congress) は、一七七七年に各植民地に命じて、彼等の土地を沒收して之を賣り、その代金を國債證券に投資するやう慫慂した。¹⁵⁾ 斯て從來の免役地代制度は全く影を沒し、大土地財産は小分して自由保有せられ、且つ又封建的所領地に特有なりし長子相續制度や世襲財産制度も消滅することとなつたのである。各植民地が土地を沒收せる二三の例を擧ぐれば次の如くである。¹⁶⁾

ニューヨーク——Sir John Johnson の莊園五萬エーカー、Philipse の莊園三百平方哩、其他(此等の土地は一筆五百エーカー

14) Carman; ibid. p. 65.

15, 16) Faulkner, H. U.; American Economic History. rev. ed. 1931. p. 169.

「以下に細分して處分せられ、三百萬西班牙弗餘が得られた」

ニューハンプシャー——二十八ヶ所の土地財産(このうちには知事ウェストウオースの所有地を含む)

マサチューセツツ——凡そ三十哩に亙る沿岸地を含む Paperell の土地財産、其他

ペンシルヴェニア——William Penn の英貨百萬磅の評價格ある土地財産

五、結 語

アメリカの資本主義的發展を促進せる消極的原因の一として、アメリカには捉はるべき中世的傳統が存在しなかつたといふことが、多くの經濟史家によつて唱へられてゐる。併しそれは嚴密なる意味に於てではなく、大體上の意味に於てであつて、少くとも土地保有制度に關する限り、植民地時代のアメリカには、中世的な或はそれ以前の要素が存在してゐたのである。この事は移住民の故地である歐羅巴に於ては、未だ封建的土地保有制度が全然消滅するまでには至つてゐなかつた當然の結果であらう。併しアメリカに於ける近代的ならざる土地保有制度は、そこに未だ居住せられざる土地が豊富に存在せしこと、移住者が主として自己の所有地を求めて渡來せる小農民であつたこと等の故に、或は早く消滅し或は實質的には近代的な個人的自由保有制度に推移しつゝあつたのであつて、この點よりしてアメリカに中世的傳統が無かつたと稱しても當を失はないのである。而して最後にその封建的な外形を打破したのは獨立戰爭である。従つて獨立戰爭は實に政治革命なりしのみならず、經濟革命でもあつたのである。かくして完全となつた自由土地保有制度が如何なる方向に發展したかは、別個の重要な問題として検討さるべきであらう。